

言いそびれていましたが、年長クラスの前にある遊具「とんがり」、園庭から見て後ろ側にネットを張ってみました。今まではどうしても大人が2人以上いないと目が行き届かず、いつでもやっていいよ、にはなっていないませんでした。ネットを張ったことでクラス単位で気軽に遊べるようになって、遊びに活気が出たように感じます。さすがに年少さんたちは登ったのはいいけど降りられない事態に陥っていますね。いつのまにかできるようになっている自分に早くなれるといいですね。

そんな折、先生との会話の中で、担任と一緒に撮る誕生会写真を丸太小屋の方にあるペンギんさんの遊具「かいぞくせん」で撮りたいという子がいる、というのを聞きました。見えているのに遊べない・・憧れみたいなものではないでしょうか。私は「ほほう・・」と思いました。

個人的に以前から、なんか見たまんまの遊びしかできないと思われる遊具にあまり魅力を感じないという固定観念がありました。例えば恐竜の化石の空間がおうちやレストランになったり、三角タワーの下がどろだんご用の乾いた土の場所であったり、登り棒の中がドロケイの陣地になったり、チャレンジしないとできるようにはならないような、一石二鳥にも三鳥にもなるようなモノが好きなのです。しかし、子どもたちにとってはやはり見た目に惹かれますし、見た感じが「やりたい」意欲を掻き立てるのでしょう。

そんなわけで、こころでひとつ、そんな見た目の遊具でも・・と考えたのもつかの間、予算の折り合いが・・全くつかず・・あきらめた次第です・・。

う～ん、そうだな、その代わりに、何か足すことくらいできるか、うん、そうだ、そうしよう、やってやる、俺はやる、多分やる、待っててくれよ、みんな。

子どもたちには黙っておこう・・いつ出来上がるかわからないから・・。

### 今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・園での生活のしかたや流れがわかり、できることは自分でやろうとする気持ちが  
見られる。
- ・保育者に親しみ、自分の要求や気持ちを表す。（ぼくも！わたしも！）
- ・道具や遊びを媒介しながら仲間の存在を知る。

4歳

- ・集団生活への抵抗がほぼなくなる。
- ・クラスの大部分の子どもを知っている。（名前やマーク、どんな遊びをしている）
- ・グループ単位の中で自由に会話ができる。

5歳

- ・集団の一員としての意識を持って行動できる。  
（その中で自分が何をすることがわかっている）
- ・互いの力量、よさなどが認め合える。
- ・どんなメンバーの中でも自分の要求が言える。